

生物多様性

カシオの生物多様性を保全する取り組みについて紹介します。

カシオの生物多様性保全への思い

2010年は、生物多様性条約締約国会議（COP10）が名古屋で開催されます。地球上の生きとし生けるものの「命」にかかわる問題を解決するための大切な国際会議です。

カシオはCOP10の合意形成を応援し、その約束に取り組みます。

カシオの生物多様性保全に対する決意 ～「環境宣言」と「環境行動目標」に具体化

カシオは2009年8月に2050年を見据えた「環境ビジョン」と「環境宣言」を制定しました。

「環境ビジョン」の中で大量生産・消費のあり方を問い、低炭素社会の実現が地球規模の課題であることを認識し、生物多様性の保全にかかわる事項について、「疲弊した地球環境の再生にいっそう真剣に取り組み」「あらゆる生物・自然との共生に、ますます価値を求める」時代になると展望し、以下のよう

「地球の財産である「エネルギー」「資源」「生物」の、持続可能な利用と共生について新しい取り組みを考え、実行します」

そして、この「環境ビジョン」に基づき、「環境宣言」の項目に「生態系の保全」を掲げ、「カシオはあらゆる生物・自然と共生し、自然循環と事業活動との調和に取り組みます」

さらに「環境行動目標」に以下の目標を定め、公式な取り組みをスタートさせました。

「生物多様性・生態系サービスの保全のため、2011年までにすべての事業領域において生物多様性影響度調査を行い、施策テーマを制定する」そして、当面の活動を以下のように進めていきます。

第1ステップ：カシオ生物多様性活動方針およびガイドラインを制定する（目標：2010年）

第2ステップ：すべての事業領域において生物多様性影響度評価を行う（目標：2011年）

第3ステップ：カシオの生物多様性保全を実現する施策テーマを実行する（目標：2012年）

2009年度の生物多様性保全活動

カシオは、事業を通じて、希少動植物の保全活動や環境教育などに取り組むNPOやNGOを支援しています。そして地域の生物多様性保全についても継続的な支援を行っています。

2009年エコプロダクツ展ではその活動を紹介展示しました。



WWF ジャパン支援

アイサーチ・ジャパン支援

コンサベーション・アラ
イアンズ・ジャパン援助

チューリップ・大賀ハス里
親活動

美しい山形・最上川フォー
ラム支援

種の保存への取り組み ～ 「乙黒桜」について

「乙黒桜（おとぐろざくら・正式名称：コマツナギ）」は4月中旬に満開になる遅咲きの山桜で、5～6センチの大きめの白い花が付き、葉も一緒に出ます。

明治から大正期に、現在の山梨県中央市を流れる笛吹川のほとり、乙黒地区の「乙黒の土手」と称されたところに咲いていたことから「乙黒桜」と名づけられ、長く地域住民に親しまれてきました。

しかし昭和7年の笛吹川改修に伴い、この「乙黒桜」も伐採されてしまいます。乙黒地区の田中松彦氏は、この由緒ある「乙黒桜」を復活させようと、僅かに残った子孫の木から接木して苗を育成されました。その活動が実を結び、2002年度に「乙黒桜を育てる会」が発足。玉穂町（現：中央市）教育委員会「生涯学習館」を中心に地域を挙げて、数本残った「乙黒桜」の子孫の桜から、挿し木や接木の方法で繁殖・保存の取り組みが始まりました。

甲府カシオは環境活動の一環として「乙黒桜」の種の保存と工場緑化推進を目的にこの希少種の育成に参加する申し入れを行い、玉穂町（現：中央市）から寄贈を受け、2004年からの3年間で合計30本余りの植樹を行ってきました。どの樹も植樹されてからしっかり根付き、甲府事業所の敷地内で美しく開花し、人々の目を楽しませています。

「乙黒桜」は、カシオと地域をつなぐ象徴的な存在と言えます。身近なところから「種の保存」という今日的課題にいち早く取り組んできた事を誇りに思います。文字どおり、人と事業と生物の利用と共生が花開いています。



甲府カシオ敷地内の乙黒桜

